

参考

平成19年分申告所得税に適用される主な項目と金額

1 一般の税率

195万円未満の金額…………… 5%	695万円以上の金額…………… 23%
195万円以上の金額…………… 10%	900万円以上の金額…………… 33%
330万円以上の金額…………… 20%	1,800万円以上の金額…………… 40%

2 所得控除（主なもの）

雑損控除額	「損害金額—保険金などで補てんされる金額」の金額（Ⓐ）を基として計算した、次の①と②のいずれか多い方の金額 ① Ⓐの金額—（所得金額の合計額×10%） ② Ⓐの金額のうち災害関連支出の金額—5万円									
医療費控除額	$\left[\frac{\text{支払った} - \text{保険金などで補てんされる金額}}{\text{医療費の額}} \right] - \left[\frac{10\text{万円} + \text{「所得金額の合計額の } 5\% \text{ 」}}{\text{のいずれか少ない方の金額}} \right] \text{ (最高限度額 } 200\text{万円})$									
社会保険料控除額	支払った又は給与から控除される社会保険料の合計額									
小規模企業共済等掛金控除額	支払った小規模企業共済掛金（旧第2種共済掛金を除く。）、確定拠出年金法の個人型年金加入者掛金及び心身障害者扶養共済掛金との合計額									
生命保険料控除額	$\left[\frac{\text{一般の保険料の計の金額 (Ⓐ) を下の i から} + \text{り並に当てはめてその (Ⓐ) の金額を基に計算した金額 (最高 } 5\text{万円) }}{\text{の金額を基に計算した金額 (最高 } 5\text{万円) }} \right] + \left[\frac{\text{個人年金保険料の計の金額 (Ⓑ) を下の i から} + \text{り並に当てはめてその (Ⓑ) の金額を基に計算した金額 (最高 } 5\text{万円) }}{\text{の金額を基に計算した金額 (最高 } 5\text{万円) }} \right]$ i 25,000円までの場合 ……………… Ⓐ又はⒷの全額 ii 25,000円を超える場合 ……………… Ⓐ又はⒷ) × 1/2 + 12,500円 iii 50,000円を超える場合 ……………… Ⓐ又はⒷ) × 1/4 + 25,000円									
地震保険料控除額	損害保険契約等に係る地震保険料の金額の合計額 + $\left[\frac{\text{長期損害保険契約等に係る旧長期損害保険料の金額の合計額 (Ⓑ) } + \text{ (Ⓑ) の金額が } 10,000\text{円を超える場合は } (Ⓑ) \times 1/2 + 5,000\text{円) }}{\text{の金額が } 10,000\text{円を超える場合は } (Ⓑ) \times 1/2 + 5,000\text{円) }} \right] \text{ (最高限度額 } 5\text{万円)}$									
寄付金控除額	$\left[\frac{\text{「特定寄付金の支出額」と「所得金額の合計額の } 40\% \text{ 」のいずれか少ない方の金額}}{\text{の金額}} \right] - 5,000\text{円}$									
障害者控除額	障害者1人につき ……………… 270,000円 ただし、特別障害者については ……………… 400,000円									
寡婦（寡夫）控除額	270,000円（特定の寡婦は350,000円）									
勤労学生控除額	270,000円									
配偶者控除額	配偶者控除額は、次の表で求めた金額									
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>同居特別障害者である者</td> <td>左記以外の者</td> </tr> <tr> <td>一般の控除対象配偶者</td> <td>730,000円</td> <td>380,000円</td> </tr> <tr> <td>老人控除対象配偶者</td> <td>830,000円</td> <td>480,000円</td> </tr> </table>		同居特別障害者である者	左記以外の者	一般の控除対象配偶者	730,000円	380,000円	老人控除対象配偶者	830,000円	480,000円
	同居特別障害者である者	左記以外の者								
一般の控除対象配偶者	730,000円	380,000円								
老人控除対象配偶者	830,000円	480,000円								

扶養控除額	扶養控除額は、次の表で求めた金額		
	一般の扶養親族	同居特別障害者である者	左記以外の者
	特定扶養親族	980,000円	630,000円
	老人扶養親族	830,000円	480,000円
同居老親等		930,000円	580,000円
配偶者特別控除額	生計を一にする配偶者で控除対象配偶者に該当しない者の所得金額の合計額（繰越損失控除前）(④)に基づき、次の表で求めた金額		
	配偶者の④の金額	控除額	
	380,000円以下	0円	
	380,001円から399,999円まで	38万円	
	400,000円から449,999円まで	36万円	
	450,000円から499,999円まで	31万円	
	500,000円から549,999円まで	26万円	
	550,000円から599,999円まで	21万円	
	600,000円から649,999円まで	16万円	
	650,000円から699,999円まで	11万円	
	700,000円から749,999円まで	6万円	
	750,000円から759,999円まで	3万円	
	760,000円以上	0万円	
基礎控除額	380,000円		

3 税額控除（主なもの）

配当控除額	① 課税総所得金額が1千万円以下の場合 …………… 次の①と②の合計額
	① 剰余金の配当、利益の配当、剰余金の分配及び特定株式投資信託の収益の分配（以下「剰余金の配当等」という。）に係る配当所得の金額×10%
	② 特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額×5%
	② 課税総所得金額が1千万円を超え、かつ、課税総所得金額から特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額を控除した金額が1千万円以下の場合…………次の①と②の合計額
	① 剰余金の配当等に係る配当所得の金額×10%
	② $\left[\text{特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額のうち、課税総所得金額から1千万円を控除した金額に相当する部分の金額(A)} \right] \times 2.5\% + \left[\text{特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額のうち、(A)以外の部分の金額} \right] \times 5\%$
	③ 課税総所得金額から特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額を控除した金額が1千万円を超える場合（④に該当する場合を除く。）…………次の①と②の合計額
	① $\left[\text{剰余金の配当等に係る配当所得の金額のうち、課税総所得金額から1千万円と特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額の合計額を控除した金額に相当する部分の金額(A)} \right] \times 5\% + \left[\text{剰余金の配当等に係る配当所得の金額のうち、(A)以外の部分の金額} \right] \times 10\%$
	② 特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額×2.5%
	④ 課税総所得金額から剰余金の配当等に係る配当所得の金額と特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額の合計額を控除した金額が1千万円を超える場合…………次の①と②の合計額
	① 剰余金の配当等に係る配当所得の金額×5%
	② 特定証券投資信託の収益の分配に係る配当所得の金額×2.5%

(特定増改築等)
住宅借入金等
特別控除額

- ① 平成19年中に居住の用に供した場合
- A 居住の用に供した年（1年目）から6年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高2,500万円)} \end{array} \right) \times 1\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- B 7年目及び10年目の各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高2,500万円)} \end{array} \right) \times 0.5\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ② 平成19年中に居住の用に供した場合に、①に代えて居住のように供した年以後15年間の各年について行うことができる住宅借入金等特別控除の控除額の特例による計算方法を選択するとき
- A 居住の用に供した年（1年目）から10年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高2,500万円)} \end{array} \right) \times 0.6\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- B 11年目及び15年目の各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高2,500万円)} \end{array} \right) \times 0.4\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ③ 家屋について特定増改築等（バリアフリー改修工事）を含む増改築をした部分を、平成19年4月1日から平成20年12月31日までの間に居住の用に供した場合（①又は②に代えて適用）
- 居住の用に供した年（1年目）から5年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{特定増改築等住宅} \\ \text{借入金等の年末残} \\ \text{高の合計額 (Ⓐ)} \\ \text{(最高200万円)} \end{array} \right) \times 2\% + \left(\begin{array}{l} \text{増改築等住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額 - (Ⓐ)} \\ \text{(最高1,000万円)} \end{array} \right) \times 1\% \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ④ 平成18年中に居住の用に供した場合
- A 居住の用に供した年（1年目）から7年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高3,000万円)} \end{array} \right) \times 1\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- B 8年目及び10年目の各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高3,000万円)} \end{array} \right) \times 0.5\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ⑤ 平成17年中に居住の用に供した場合
- A 居住の用に供した年（1年目）から8年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高4,000万円)} \end{array} \right) \times 1\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- B 9年目及び10年目の各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高4,000万円)} \end{array} \right) \times 0.5\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ⑥ 平成13年7月1日から平成16年12月31日までの間に居住の用に供した場合
(居住の用に供した年（1年目）から10年目までの各年)
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高5,000万円)} \end{array} \right) \times 1\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$
- ⑦ 平成11年1月1日から平成13年6月30日までの間に居住の用に供した場合
- A 居住の用に供した年（1年目）から6年目までの各年
- $$\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \text{(最高5,000万円)} \end{array} \right) \times 1\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} 100\text{円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$$

(特定増改築等) 住宅借入金等 特別控除	<p>B 7年目から11年目までの各年</p> $\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \hline \text{(最高5,000万円)} \end{array} \right) \times 0.75\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} \text{100円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$ <p>C 12年目から15年目までの各年</p> $\left(\begin{array}{l} \text{住宅借入金等の} \\ \text{年末残高の合計額} \\ \hline \text{(最高5,000万円)} \end{array} \right) \times 0.5\% \cdots \cdots \cdots \rightarrow \left[\begin{array}{l} \text{100円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right]$
政党等寄付金 特別控除額	<p>次の①と②のいずれか少ない方の金額（100円未満の端数切捨て）</p> $\text{① } \left[\left(\begin{array}{l} \text{政党等に対する} \\ \text{寄付金の支出額} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{l} 5\text{千円} - \text{「特定寄付金の支出額} \\ \text{(赤字のときは0)} \end{array} \right) \right] \times 30\%$ <p>② 所得税の額の25%相当額</p>
住宅耐震改修 特別控除額	$\left(\begin{array}{l} \text{住宅耐震改修に} \\ \text{要した費用の額} \end{array} \right) \times 10\% = \text{住宅耐震改修} \left[\begin{array}{l} \text{100円未満の} \\ \text{端数切捨て} \end{array} \right] \text{特別控除額} \left[\begin{array}{l} \text{最高20万円} \end{array} \right]$
電子証明書等 特別控除	<p>電子証明書を有する個人が、本人の電子署名及びその電子署名に係る電子証明書を付して平成20年3月17日までに国税電子申告・納税システム（e-Tax）により確定申告する場合は、その者のその年分の所得税額を限度として5,000円を控除する。</p>